

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高蔵 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	本年度の本校平均正答率は、全国平均正答率より下回っている。言語の特徴や使い方に関する事項については全国平均回答率を上回ったが、話すことや聞くことに関する思考力・判断力・表現力の内容において正答率が低くなっている。
	よくできた問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題。時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる問題。
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題。自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題。

算数	全体的な傾向や特徴など	本年度の本校平均正答率は、全国平均正答率より下回っている。「数と計算」「測定」の領域については概ね全国平均得点率に近かったが、「図形」「変化と関係」の領域において全国平均正答率より低くなっている。また、「記述式」の問題について、言葉や数を用いて求め方や答え方を記述することに課題がある。
	よくできた問題	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる問題。分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題。異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題。
	努力が必要な問題	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題。基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題。「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題。

理科	全体的な傾向や特徴など	本年度の本校平均正答率は、全国平均正答率より下回っている。「生命」「地球」を柱とするの領域については概ね全国平均得点率に近かったが、「エネルギー」「粒子」を柱とする領域において全国平均正答率より低くなっている。
	よくできた問題	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題。赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題。
	努力が必要な問題	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題。水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概

質問調査の結果分析	
<p>○「自分には、よいところがあると思うか」について、肯定的な回答をした児童の割合が、全国平均を上回っており、自尊心の高まりがみられる。また、「人が困っているときに助けたい」「いじめは、どんな理由があってもいけない」についても全国区平均を上回っており、道徳的な倫理観が育ってきている。</p> <p>○「授業時間以外の1日の勉強時間」については、30分より少ない・全くしないと回答した児童が、全国平均を若干上回っており、家庭学習のあり方について改善や啓発の必要がある。また、学習時間以外の読書の時間にも課題がみられる。</p> <p>○「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか」について、肯定的な回答をした児童の割合は低かったが、「地域や社会をよくするために何かしたい」について、肯定的な回答をした児童は全国平均を上回り、郷土への愛着が高いことがわかる。</p> <p>○毎日の起きる時刻や寝る時刻、毎日の朝食摂取、SNS等の利用時間やルールを守ることなど、生活習慣の安定と充実に関しては、今後も児童への指導と家庭への啓発をし、連携していく必要がある。</p> <p>○「授業の中でPC・タブレットなどのICT機器を週に1回以上使う」と回答している児童の割合が100%だった。一方で、授業の中でICT機器を活用して「自分の考えや意見を分かりやすく伝えたり、友達と考えを共有したりする」力を育成することが今後の課題である。</p>	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<p>○教科の学習の中で、自分の考えをもち、自分の思いを表現することができるようになってきた。児童が自身の考えをさらに表出できるように授業改善を図っていく。また、ICT機器を効果的に活用して友達との意見交流を行い、自分の思いや考えをさらに深める学習活動に取り組むようにする。</p> <p>○各教科の基礎的・基本的な内容の更なる定着を図るために、ICT機器を効果的に活用した授業改善や補充学習の取組を進める。特に、GIGA端末を調べ学習を行う際だけでなく、友達と意見を交換したり、自分の意見をまとめ発表したりする場面等で効果的に活用していく。</p> <p>○様々な教科や総合的な学習の時間の中で、意図的・計画的な追求活動を仕組むとともに、高蔵校区の「ひと・もの・こと」に積極的にかかわる活動を充実していく。</p>
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>○高蔵小学校みんなで守る「タッカー三つの花大作戦」について、児童にめあてをしっかりとせ、基本的な生活習慣の安定を図り、気持ちよく生活できるようにする。</p> <p>○食育・保健指導の取組を充実させ、食や健康に関する興味・関心を高め、望ましい生活習慣の確立をめざす。また、読書の日の取組や朝の読書タイム等を活用して、読書習慣が身に付くようにする。</p> <p>○SNS等に関しては、学級で折に触れて指導するとともに、学校・学年通信・学校ホームページ等を通して、さらなる啓発を図る。また、ゲストティーチャーを招聘するなどして、より身近な問題として捉えることができる指導を行う。</p> <p>○学習習慣の形成に向けて、家庭学習について、時間や内容等を吟味し、家庭での学習習慣の確立や基礎的、基本的な学力の定着を図る。また、学年に応じて、自主学習ノート等を活用して、自分で計画を立てたり、興味・関心のある課題に対して進んで取り組んだりするようにする。学校通信・学年通信や学校ホームページで、保護者アンケートの結果等を公表し、本校の成果や課題を保護者に周知し、協力を得るようにする。</p>
--